

2010 年度 第 1 回水工学委員会議事録

日時： 2010 年 7 月 26 日(月) 14:00-17:00

場所： 土木学会講堂

出席者： 玉井信行(顧問)，中川 一(委員長)，寶 馨(副委員長)，関根正人(幹事長)，田中昌宏(編集幹事長)，泉 典洋，井芹 寧，大槻英樹，清水康行，田中 仁，藤堂正樹，泊 宏，西田修三，西村達也，原田守博，藤田裕一郎，矢島 啓，渡邊康玄，大石 哲，門田章宏，坂井伸一，清水義彦，立川康人，早川 博，藤田光一，陸 旻皎 [敬称略]

議題：

《報告事項》

1. 水工学委員会構成 (幹事長)

2. 2010 年度水工学に関する夏期研修会 (神戸大学)について (藤田一郎幹事)

8 月 11~12 日に神戸大学工学部にて開催する。水工学委員会の担当。 [関西支部]
A コースのテーマは「都市水害の実態と避難対策」。

3. 水シンポジウム in ふくおかについて (幹事長)

8 月 3~4 日に福岡大学にて開催する。

メインテーマは「過去から未来へ 人・水の関わり 福岡からの発信」。

第一分科会は水工学委員会の環境水理部会(井芹部会長)が担当する。

第一分科会のテーマは「流域圏における水環境と生活」。

4. 全国大会時の研究討論会について(立川康人幹事)

「水理・水文解析ソフトウェア統合型共通基盤の活用と総合的な水解析ソフトウェアへの進化に向けて」を 9/3 に開催する。

5. 各部会・小委員会の活動報告および活動計画

○水文部会：

「ダム計画や治水・利水計画について、水文分野は今後どのように貢献するのか、できるのか。」と題した小水文研究集会を 3/5 に開催。9 月上旬に研究集会を予定。

○基礎水理部会：

「日米共同プロジェクトフリー河床変動解析ソフト(iRICVersion1.0)」の説明会を 4/22 に土木学会講堂で開催した。第 4 回基礎水理シンポジウムを本年 12/6 に土木学会講堂にて開催の予定。部会見学会を計画中。

○環境水理部会：

研究集会を 7/2-3 に関東甲信越地区国立大学草津セミナーハウスにて開催した。ミニシンポジウムも企画予定。

○河川部会：

河川技術シンポジウムを 6/3-4 に東京大学弥生講堂にて開催した。シンポジウム参加者は 409 名。河川技術論文集に登載された論文は 93 編。

○水理・水文解析ソフトウェアの共通基盤に関する小委員会：

CommonMP コンソーシアム推進委員会が設立されるとともに、CommonMP 説明会なら

びに演習セミナーが開催される。

6. IAHR Japan Chapter について：

中川委員長より関連する説明があり、12月にIAHRワークショップを京都で開催する予定であることも説明された。また、玉井信行先生が土木学会国際貢献賞を受賞された旨の報告があった。

7. 委員会予算について(幹事長)：

前年度開催の水工学委員会関連行事(河川技術シンポジウム、水工学に関する夏期研修会、水工学講演会)の収支が赤字となった関係で、今年度の調査研究費配分額が昨年に比べてかなりの減額となることが説明された。例年に比べて経費上厳しい運営が求められることになった。今年度以降の行事の黒字化を目指して見直しを進めていく。

8. 土木学会論文集再編について(幹事長)：

2011年1月以降、土木学会論文集B1をJ-Stage上に年4回発刊する。このうち、従来の水工学論文集がその特集号となるため、今年度は移行期間となる。水工学論文集に関しては、従来通り2月にCD版を発行するが、その後これをJ-Stage上に掲載することにし、後者を正式版とする。掲載時期は8月かそれ以降となる。

今後、土木学会英文論文集JSCE Journal of Hydraulic, Coastal and Environmental Eng.がJ-Stage上で発刊されることになった。B部門全体を対象とするものとなるが、主として水工学委員会関連の論文が対象となる。これは、海岸工学ならびに海洋開発委員会との協議の上で確認され、これまでのJHHE(Journal of Hydrosience and Hydraulic Eng.)論文からのスムーズな移行を目指す。編集委員会もJHHE編集小委員会を母体として組織する。年1回以上の発行。当面はSelected Paperを主体として編集する。2011年6月からの予定[(追記)1年間の延期が決定されている]。

《協議事項》

1. 2010年度の年間スケジュールについて

委員会ならびに幹事会の予定は以下の通りである。第2,3回幹事会は水工学論文集編集小委員会の合間に開催する予定。

2010年6月22日(火)	14:00~17:00	第1回幹事会
2010年7月26日(月)	14:00~17:00	第1回委員会
2010年10月5日(火)	13:00~14:00	第2回幹事会
2010年11月5日(金)	13:00~14:00	第3回幹事会
2011年3月8日(火)	18:00~20:00	第2回委員会

2. 第55回水工学講演会の開催について(東京大学)：世話役 沖 大幹先生・知花武佳先生

2010年3月8日(火)、9日(水)、10日(木) 東京大学駒場リサーチパーク内生産技術研究所

3. 第56回水工学講演会の開催について

愛媛大学で開催する案が了承された。3/6(火)~8(木)の予定。幹事の門田章宏先生(愛媛大学)が世話役となる。

4. 2011年度水工学に関する夏期研修会(海岸工学委員会の担当)について

広島大学(四国支部)で開催する方向で検討する。四国支部委員の矢島 啓 先生(鳥取大学)が当委員会の担当となり、委員兼幹事の朝位孝二先生(山口大学)ならびに河原能久先生(広島大学)と協議しながら案を練っていくことを確認した。

5. 2011 年度水シンポジウムについて

京都開催 (京都府, 京都市, 国土交通省関西地方整備局, 土木学会水工学委員会)
実行委員長(水工学委員長), 企画部会長(同 幹事長), 企画部会委員(京都大学 立川康人先生), 第1分科会担当(藤田一郎 基礎水理部会長)

6. 利根川治水の現状と課題に関する検討P T (仮称) について

中川委員長より説明があり了承した。

7. 土木学会豪雨災害緊急調査団設置ならびに派遣について

中川委員長より説明があり, 調査団長を寶副委員長とした調査団を組織することを了承した。

8. 水工学論文集編集作業について(田中編集幹事長)

昨年度の総括と新年度の編集作業について田中編集幹事長より説明があった。

第54巻(2009年度) 投稿数 363 編, 採択数 276 編, 採択率 76.0%

会員番号取得の厳正化などを進めていくことなどを確認した。土木学会論文集再編に伴って今年度募集する論文からその対象となり, J-Stage への対応について検討を進めていく。

9. 平成 22 年度水工学論文賞ならびに同論文奨励賞選考について (幹事長)

審査結果に基づき協議を行った。受賞者の幹事会案が諮られ, 了承された。受賞者は以下の通りである。

論文賞:

Wenchao SUN, Hiroshi ISHIDAIRA, Satish BASTOLA (University of Yamanashi) :

An integrated approach incorporating river cross-sectional geometry derived from high resolution DSM for river discharge estimation.

論文奨励賞:(五十音順)

佐山 敬洋 (土木研究所) :

分布型流出モデルと動的計画法の統合による貯水池制御最適化シミュレータの開発。[共著者: 立川康人・菅野浩樹・寶 馨]

鍋島康大 (早稲田大学) :

植生の根系と葉系が降雨による斜面浸食過程に及ぼす影響。[同: 関根正人]

山田 朋人 (北海道大学) :

Hydrological forecast skill associated with land surface initializations。[同: Randal D. Koster, Shinjiro Kanae, Taikan Oki]

以上